

日没帯食

茶木 恵子（花山星空ネットワーク）

1. はじめに

1月15日にアフリカ～中国にかけて金環食が見られました。残念ながら日本では、金環食にはならず、部分蝕のみでしたが、沖縄から関東南まで欠け始めた太陽がそのまま沈む、日没帯食を見る事ができました。なお、京都市付近の日没時食分は0.264でした。

2. 観測地

関西付近は食が小さく、欠け始め（第一接触）の太陽の高度も極めて低くなるので、見るなら、とにかく西に地平線か水平線の見える所にしなければと思いました。地平線の見える所などは、近所に殆どありませんが、水平線は、島国日本！いっぱいあります。と言っても、山陰、日本海側では欠けませんし、和歌山は遠すぎるので、大阪湾から瀬戸内海までに絞りました。

最初、ポートアイランドが良いかと思いました。明石大橋と欠けた太陽が、ワンショットで収まるかもしれないと思ったのです。

・・・があ、Google Earth でシミュレーションをして見た所、欠けた太陽は淡路島に阻まれる事が判明。（グーグルさんよ、あんたはえらい！）グーグルで海岸沿いを西に西にと進み、なおかつ、車の停められる所を探して行くと、明石大橋下まで行ってしまいました。大橋と日食を一緒に写すのは無理でも、間違いなく水平線に太陽が沈んで行く場所です。それに、大橋に邪魔される事はありません。橋より東側だと、巨大な橋脚や橋そのものが、太陽を隠してしまう可能性もありますから、橋を越えた方が確実です。

というわけで、同好会仲間と一緒に、明石大橋の橋げたの所（橋の科学館の前）で、観測する事にしました。

3. 観測と撮影

当日、観測地近くの有料駐車場に車を止めました。そこから数分歩いて機材を運んだのですが、駐車場ではさほど感じなかったのに、現地は海辺だけあって、風が強くて、とても寒く感じました。西の空には、雲が広がっており、これはダメかも・・・と思いました。第一接触まで20分ぐらい

☆・日没帯食・☆

しかありませんでしたが、徒労に終わるのではないかと思うと、機材を組む手も、のろのろでした。用意した機材は、カメラとビデオの二種類でしたが、一方の簡易赤道儀に望遠鏡+カメラをセットしただけで、もういいかと思いました。カメラチェックの際、太陽は雲間に見え隠れする程度で、位置合わせはできて、ピントが分かりませんでした。

明石での日食データ（エクリプス・ナビゲーターによる）

第1接触：16:47:15 高度 3.7°

日没：17:13:16 食分 0.329

欠け始めから日没まで 26 分間ありますが、雲が多くて、見えそうにありませんでした。ただ、欠け始めの時、ちょっと太陽が顔を出してくれました。日没時なので、日食めがねも、カメラ用の減光フィルターも不要でした。しかも太陽はこのあと、すぐに雲に隠れてしまいました。海と太陽の間に、一か所、細く空いている所があり、太陽一個分もありませんでしたが、そこを狙うのみでした。

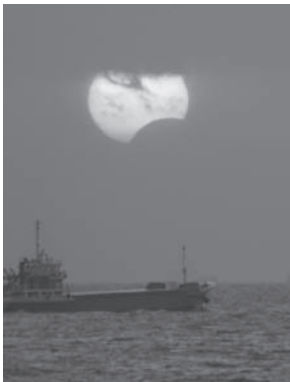
じっと、待っていると、切れ間の空が赤くなり、ついに、太陽が見えてきました。

「欠けてる欠けてる！」

肉眼でもはっきりわかりました。見ながら撮影していると、海面を船がすべって来ます。

「おっ！ いい時、いいもんが来たもんだ！」

欠けた太陽の下に、絶妙のタイミングで、貨物船が、滑り込んで来たのです。それは撮って下さいと言わんばかりの登場でした。



☆・日没帯食・☆

船と太陽がこの望遠レンズの写野の中に一緒に収まるには、その大きさや距離など、相当の偶然が重ならなければなりません。しかも、船が通り過ぎた後、すぐに、太陽は雲に隠れてしまいました。この、欠けた太陽が見られたのは、ほんの一分強だった事を思うと、私たちは、本当にラッキーだったと思います。(日頃の行ないが良いからでしょうかねえ・・・爆！)

できあがった写真は水平線が斜めになっていたり、露出オーバーだったりして、完璧には程遠いものでしたが、夕焼け色がきれいで、自己満足には充分でした。(笑)

共通データ

場所：明石大橋 橋の科学館前

機材：

レンズ：スコープタウン自作用レンズ D=50mm fl=420mm (35mm 版で約 672mm 相当) 昨年の皆既日蝕用に友人に作ってもらった物。

カメラ：Canon EOS X2 ISO400, トリミング

赤道儀：友人手作り簡易赤道儀 2号 (あすとろん Vol. 7 参照)

撮影者：茶木恵子

コメント：ブラケット撮影の為、2枚目は完全に露出オーバーになってしまいました。又、ピントもイマイチでした。

日時：2009年1月15日

2913番：17:04:46 ～ 1/160 秒

2914番：17:04:49 ～ 1/41.5 秒

2915番：17:04:53 ～ 1/80 秒

ホームページ：「あすとろけい」 <http://www2.odn.ne.jp/~cap94210/>